

一九九一年オーストラリアアカデミー賞(AFI)最優秀主演女優賞
オーストラリア人権賞最優秀映画賞
一九九二年フランダース国際映画祭グランプリ



「人生はとても美しい」
ひとりの女性が迎えた人生最後の日々、
その輝きを見つめ人間の尊厳を問う感動の名作。

ポール・コックス監督作品 / 1991年オーストラリア映画 / カラー

ある老女の物語

A WOMAN'S TALE

世界の名画を見る会 vol.9

(企画・構成 高野悦子)



●講演●

「わたしの映画人生50年」

高野悦子

●上映作品●

「ある老女の物語」(オーストラリア映画)

'98 12月20日 日

開場 13:00

開演 14:00

黒部市国際文化センター **コラーレ** 入場料 / 1,200円(全席自由)
(カーターホール) 当日1,500円

※5歳未満のお子さまの入場はご遠慮願います。
一時保育を希望される方は事前にご連絡ください。

富山県民芸術文化祭協賛事業

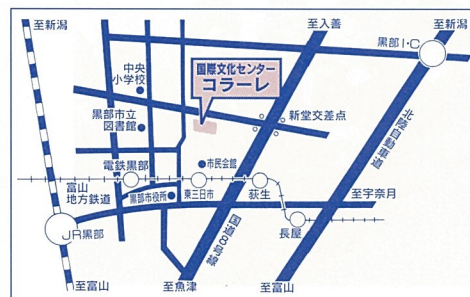
主催 財団法人黒部市国際文化センター 共催 北日本放送 後援 黒部市・黒部市教育委員会

お問い合わせ

財団法人黒部市国際文化センター
TEL(0765)57-1201 FAX(0765)57-1207

プレイガイド

- | | | |
|-----|-----------|----------------|
| 黒部 | コラーレ | ☎(0765)57-1201 |
| | メルシー | ☎(0765)54-2221 |
| | ロイヤルバリー黒部 | ☎(0765)54-1000 |
| 魚津 | 新川文化ホール | ☎(0765)23-1123 |
| | 魚津サンプラザ | ☎(0765)24-3030 |
| 入善 | コスモホール | ☎(0765)72-1105 |
| | コスモ21 | ☎(0765)74-9100 |
| 砺波 | アスカ | ☎(0765)82-2000 |
| 宇奈月 | セレネ | ☎(0765)62-2000 |
| 富山 | インフォマート | |
| | [市民プラザ] | ☎(0764)91-0110 |
| | [CIC駅前店] | ☎(0764)44-7013 |
| | 北日本新聞社 | ☎(0764)45-3300 |
| | 富山県民会館 | ☎(0764)32-3111 |
| | 富山映画サークル | ☎(0764)32-3931 |



ひとりの女性が迎えた人生の最後の日々、その輝きを見つめ人間の尊厳を問う感動の名作。

ある老女の物語

1991年オーストラリア・アカデミー賞(AFI)最優秀主演女優賞/オーストラリア人権賞最優秀映画賞/1992年フランダース国際映画祭グランプリ

シラ・フローランス/ゴージャド・プロヴォルスカ/監督 ポール・コックス/脚本 ポール・コックス、バリー・ディキンズ/撮影監督 ニーノ・G・マルティネッティ
美術 ニール・アルグウィン/音楽 ポール・グラボウスキー/編集、録音 ラッセル・ハーレー/製作 ポール・コックス、サンサナ・ナイドゥ (1991年オーストラリア映画)



●「ある老女の物語」(91)は、快活でユーモアにあふれる78歳の主人公マーサと、若い地域看護婦アンナとの友情を通して、老人と介護する者の幸福な関係を描いている。そして、人間が誇りをもって最後まで生きるには、どうしたらよいかということを感じ動的に問いかける。監督は、オーストラリアの名匠ポール・コックスである。

●主人公のマーサは、老いても精神は自由で若々しい。優しさとユーモアで人を包み、自立した生活を送っている。

彼女はガンに冒されているが、それによって自分の生き方を変えたりはしない。息子のジョナサンが心配しても、彼女は煙草もやめないし、思い出の品々があるアパートを引き払って病院や老人ホームに入る気もない。毎日介護にくる地域看護婦のアンナは、マーサの一番の理解者であり友人だ。自宅で最期まで暮らしたいというマーサの願いを尊重し、マーサを支えている。

ある日、隣の部屋に住む高齢のピリーが突然亡くなり、マーサに衝撃を与える。マーサもガンが悪化し、次第に体が衰え、ついに怪我をしてしまう。見かねた息子は、老人ホームに入れようとするが、マーサは、自分の人生を自分で決定しようとする。

●愛にあふれ、わけへだてなく人と接し、自分の考えで生き、筋の通らないことは受けつけないというマーサ像は、彼女を演じた女優シラ・フローランスをモデルにしており、作品には彼女の意見が数多く取り入れられている。フローランスは、自身もガンのために死を宣告されながらもマーサ役を渾身の力で演じた。そして、オーストラリア・アカデミー賞(AFI)最優秀主演女優賞を受賞し、その直後に亡くなった。

フローランスは1916年に生まれ、しばらくイギリスで活動した後、オーストラリアに移住し活動を続けた。コックス監督はフローランスと30年来の知り合いで、彼女を主演に映画を撮ることを約束していたが、フローランスの病状の悪化を知り、彼女のために「ある老女の物語」を構想したという。

マーサの看護婦でもあり、無二の親友であるアンナを演じたゴージャド・プロヴォルスカは、ポーランド出身の女優である。彼女はコックス監督の近作にはほとんど出演している。1996年国際女性映画週間で「ある老女の物語」が上映された際に来日し、フローランスとの交流を通して、人生を最後まであきらめずに自分らしく生きること、そして愛することの尊さを学んだと語り、満員の観客の感動を誘った。

マーサと対照的な生き方をする隣人ピリーを演じるのはノーマン・ケイで、オーストラリア演劇界で40年以上にわたって活動してきたベテラン俳優である。

ポール・コックス監督は、1940年オランダ生まれ。1963年にオーストラリアを初めて訪れた後、メルボルンに定住する。1972年に長編劇映画第1作「旅」を発表して以来、「孤独な心」(81)をはじめ「花の男」(83)、「ヴィンセント」(87)など、現在までに16本の長編作品を発表しており、オーストラリアでは、多作な映画作家といえる。コックス監督の国際的評価は高く、いくつかの国際映画祭で特集上映が行われている。日本では、「ある老女の物語」が監督の劇場初上映作品となる。

(上映時間1時間36分)

